

「一つの中国」コンセンサスと「平和統一」 の連関：中国の対台湾政策に関する実証研 究

福田, 円 / FUKUDA, Madoka

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

科学研究費助成事業 研究成果報告書

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

12

(発行年 / Year)

2020-06-19

令和 2 年 6 月 19 日現在

機関番号：32675

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2019

課題番号：15K17006

研究課題名（和文）「一つの中国」コンセンサスと「平和統一」の連関—中国の対台湾政策に関する実証研究

研究課題名（英文）The PRC's Unification Policy Toward Taiwan and the International Consensus on the "One-China"

研究代表者

福田 円 (Fukuda, Madoka)

法政大学・法学部・教授

研究者番号：10549497

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、中華人民共和国（中国）が諸外国の関係において台湾問題をめぐる「一つの中国」コンセンサスを形成する過程を、政治外交史の手法で論じた。本研究は、1970年代から80年代にかけて、中国が西側諸国との外交関係を回復し、国際的な地位を向上させるなかで、相手国の「一つの中国」への関与を限定的ながら獲得した。しかし、それは台湾海峡における武力行使の可能性を低下させる関与でもあった。この国際社会との合意は、中国が1980年代以降推進する「平和統一」政策の重要な前提となった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究には第一に、関係諸国の公開公文書や内部文書の活用により、改革開放の前提となる現代中国政治外交史を論じた実証的研究としての価値をもつ。第二に、本研究は「一つの中国」という関係諸国とのコンセンサスの形成と中国の対台湾政策の連関を論じたという点において、国際政治学的にはコンストラクティビズムの含意をもつ。第三に、本研究は一義的には政治外交史研究であるが、今日の「一つの中国」原則をめぐる国際政治や関係諸国の外交政策に示唆を与えるという現代的意義も期待される。

研究成果の概要（英文）：This research reconsidered the process that the PRC built the consensus on the "One China" with Taiwan, the United States and other powers in the Asia Pacific region from the 1970s to the beginning of the 1980s, based on the first-hand materials available in China, Taiwan, and other countries. In addition, this study also discussed how the structure of the international relationship was linked to the PRC's policy of "peaceful reunification with Taiwan" proposed in 1979.

研究分野：現代中国・台湾論

キーワード：中台関係 中国外交 一つの中国

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

研究開始当初、1970年代の中国・台湾を含む東アジア国際政治史の研究が進展するなか、日中国交正常化交渉や米中国交正常化において台湾問題がどのように扱われ、台湾の中華民国政府はそれに対応したかについては、多くの新たな研究成果が発表されつつあった。また、現代中国政治外交史の研究においては、1970年代における中国共産党内の権力闘争と外交政策との連関が詳細に分析されるようになり、文化大革命末期に党内の権力闘争と連動して蛇行した当時の外交との連続性のなかで1980年代の中国外交を再検討する傾向も現れつつあった。

他方で、中国の対台湾政策や中台関係については、中川昌郎(1982, 衛藤瀋吉編『現代中国政治の構造』276-314頁)や松田康博(1996, 『国際政治』第112号, 123-138頁)の研究が、1979年以降の「平和統一」政策への転換について論じた後、1960年代末から70年代にかけての中国国内情勢および中国をめぐる国際情勢の変化と「平和統一」政策との連関が具体的に論じられることは殆どなかった。

このような研究動向をふまえ、本研究は1970年代から80年代の初頭にかけて、中国の指導者が国内外情勢および台湾の現状をいかに認識し、台湾問題をめぐる一連の交渉をどのように関連付け、戦略的に進めたのかという点を分析しようとした。そのうえで、同時代の中国から見た台湾問題をめぐる「一つの中国」コンセンサスはどのように形成され、そのことは中国共産党による「平和統一」政策の提起と展開にいかなる影響を与えたのかを考察しようとした。

2. 研究の目的

本研究の目的は以下の3つの問いにこたえることにあった。

- 1) 1970年代から80年代にかけて、中国が西側諸国との外交関係を回復し、国際的な地位を向上させるなかで、相手国の「一つの中国」への関与をどのように獲得したのか。
- 2) そこには全体的、かつ中長期的な戦略が存在したのか。存在したとすれば、上記の交渉により、中国の指導部はそれらをどの程度達成できたか。
- 3) 上記のような「一つの中国」への関与を獲得したことと、台湾に対する政策が「解放」から「平和統一」へと転換したこととの因果関係はいかなるものか。

3. 研究の方法

1970年代から80年代にかけての中国政治外交史や東アジア国際政治史は、近年研究が進展しつつあるとはいえ、必要な史料へのアクセスが十分に確保されているとは言えない。特に、台湾や西側諸国の公文書が大量に公開されつつあるのに対し、中国側の史料状況に大きな進展は見られない。本研究を開始する以前に、中国で文革以前の時期の史料公開が進みはじめた時期もあったが、今日ではそうした試みは既に停止、さらには後退してしまったことは明らかである。

このような状況を踏まえ、本研究期間においては欧米諸国や台湾で入手可能な中国の内部文書に関する情報収集を継続しつつ、短期的には台湾や西側諸国の史料を利用して、中国と関係諸国との台湾問題をめぐる交渉内容を紐解き、それがいかなる経緯を経て「平和統一」を掲げる対台湾政策へと帰結したのかを分析することとした。また、これも台湾や日本、欧米諸国での実施が主となるが、インタビューの可能性も模索し続けた。

4. 研究成果

本研究期間の調査を通じて、以下の諸点が明らかになった。

第一に、中国が自らの「一つの中国」に関する主張に対する国際的な関与を獲得したプロセスについては、本研究期間で全ての交渉について史料に基づく調査ができたわけではないが、下表に示すような関与を獲得する過程について、以下のようなパターンが見られることが分かった。

「台湾は中国の一部ノ一省」という立場の表明をめぐる交渉 (報告者作成)

国交正常化コミュニケ	交渉相手国
言及なし	フランス(1964)、西ドイツ(1972)
take note of = 注意到	カナダ、イタリア(1970)、ベルギー(1971)、ギリシャ(1972)
respect = 尊重	オランダ(1972 大使級の外交関係樹立) *日本...十分理解し、尊重し(fully understand and respect)、 ポツダム宣言第八項に基づく立場を堅持 *フィリピン(1975)...十分理解し、尊重
acknowledge = 認識到	米中上海コミュニケ(1972)...「台湾海峡の両側のすべての中国人が、中国はただ一つであり、台湾は中国の一部分であると主張している」ことを「認識」
acknowledge = 承認	イギリス(1972 大使級の外交関係樹立) オーストラリア、ニュージーランド(1972) スペイン(1973)、マレーシア(1974)、タイ(1975) 米中国交正常化コミュニケ(1979)
recognize = 承認	ポルトガル(1979)

1) 交渉開始時において、相手国は「一つの中国」の主張に対する関与を示すことを回避しようとしており、先例に従って、出来る限り台湾問題への言及が少ないかたちで中国と外交関係を樹立しようとしていた。また、そのことに関する国内的な圧力も一定程度存在した。2) 他方、中国側は交渉相手から、過去の交渉を上回る「一つの中国」への関与を獲得しようとした。ただし、このことが中国の外交関係樹立交渉のなかで、常に最優先事項だった訳ではない。相手国の事情や外交関係樹立のタイミングによっては、中国の指導部は大幅に譲歩することもあった。3) 多くの交渉において、この「一つの中国」に対する関与は、交渉の最終段階まで持ち越した議題となり、非常に不透明なかたちで交渉が妥結し、記録が公表されていない場合も多い。

第二に、上記のようなパターンと、各交渉で展開された中国側の主張や外交手法を分析していくことで、「一つの中国」への関与の獲得について、中国の指導部には長期的な戦略があったという推測が成り立つ。そして、その最大の目標は、台湾の中華民国政府にとって死活的な重要性をもつ米国との交渉にあったように思える。そのため、それ以外の諸国との交渉においては、米国との交渉にどのような影響を与えるのかということが、譲歩や非妥協をもたらす重要な要因となっていた。

第三に、上の2点に鑑みれば、米中国交正常化を成し遂げた後に、中国共産党が台湾の「平和統一」を打ち出したのは、一方で従来から言われているように主動的な決定であったが、他方では西側先進国を中心とした国際社会との関係構築の必要性から生じた受動的な決定でもあったと言えるだろう。つまり、このタイミングでの「平和統一」政策の提示は、米中国交正常化を背景に台湾に対して平和攻勢をかけるという意味はもちろんあったことが分かる。しかし同時に、米中国交正常化までに積み上げてきた関係諸国との交渉内容、さらにはこれらの諸国との関係を資源として経済改革を進めていかなければならないという状況も、「平和統一」政策の背景には存在していると言えるだろう。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計14件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 福田円	4. 巻 195
2. 論文標題 中国とカナダの国交正常化交渉 - 西側諸国との関係改善と「一つの中国」原則の形成	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国際政治	6. 最初と最後の頁 27-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 福田円	4. 巻 71-5
2. 論文標題 書評：毛里和子・毛里興三郎訳『ニクソン訪中機密会談録【増補決定版】』	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 現代中国月報	6. 最初と最後の頁 28-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福田円	4. 巻 64-1
2. 論文標題 書評：家永真幸著『国宝の政治史 「中国」の故宮とパンダ』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 アジア研究	6. 最初と最後の頁 79-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.11479/asianstudies.64.1_79	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Madoka Fukuda	4. 巻 なし
2. 論文標題 Japan's Policy Toward China and Taiwan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Strategic Japan Working Papers	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 福田円 (許コウ訳)	4. 巻 第1期
2. 論文標題 中国和西徳邦交正常化与「一個中国」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 国際関係史工作坊	6. 最初と最後の頁 262-284
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福田円	4. 巻 71
2. 論文標題 書評 『ニクソン訪中機密会談録【増補決定版】』	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 中国研究月報	6. 最初と最後の頁 28-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福田円	4. 巻 2017
2. 論文標題 習近平政権と香港・台湾	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 中国年鑑	6. 最初と最後の頁 43-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計19件 (うち招待講演 11件 / うち国際学会 16件)

1. 発表者名 福田円
2. 発表標題 中国の対台湾工作と台湾の「ナショナリズム」
3. 学会等名 2019年度アジア政経学会春季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 福田 円
2. 発表標題 「一個中国」原則の国際意涵
3. 学会等名 中国文化大学社会科学院專題講座（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Madoka Fukuda
2. 発表標題 The Hidden War Between the ROC and the PRC: Mainland Operations of the ROC 's Military Intelligence Bureau
3. 学会等名 ICAS11 (The International Convention of Asia Scholars) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 福田 円
2. 発表標題 蔡英文執政時期的日台關係
3. 学会等名 第十回日中關係における台湾問題學術シンポジウム（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 FUKUDA Madoka
2. 発表標題 The Frontline of Taiwan 's Sustainable Diplomacy: The Japan-Taiwan Relations after Taiwanese Democratization
3. 学会等名 The 15th European Association of Taiwan Studies Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 FUKUDA Madoka
2. 発表標題 Japan's Policy Toward China and Taiwan
3. 学会等名 The 5th Taiwan-Japan Strategic Dialogue (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 福田円
2. 発表標題 十九大後の日中台関係
3. 学会等名 「十九大後の中国外交、大国戦略與兩岸關係：台日韓学者の観点」国際研討会 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 福田円
2. 発表標題 圍繞「一個中国」原則的國際政治史
3. 学会等名 首都師範大学歴史学院「世界史國際論壇」(招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 FUKUDA Madoka
2. 発表標題 Improving Japan-China Relations and Japan-Taiwan Relations
3. 学会等名 The 2018 JIIA-IIR Dialogue (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 福田 円
2. 発表標題 中国から見た香港・台湾-優遇と圧力
3. 学会等名 中嶋研究会フォーラム「中国・香港・台湾」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 福田 円
2. 発表標題 日中關係の昇温與日台關係
3. 学会等名 第十四届「兩岸和平研究」學術研討會(招待講演)(國際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 福田 円
2. 発表標題 形成「一個中国」原則的國際政治史—中美邦交正常化與中共对台政策的連接
3. 学会等名 中央研究院政治学研究所「IPSAS系列演講」(招待講演)(國際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 福田 円
2. 発表標題 形成「一個中国」原則的國際政治史—中美邦交正常化與中共对台政策的連接
3. 学会等名 国立政治大学東亞研究所「東亞所專題演講」(招待講演)(國際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 福田 円
2. 発表標題 蔡英文政権 1 年目の日台関係
3. 学会等名 第八回日中関係における台湾問題学術シンポジウム (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 福田 円
2. 発表標題 中国とカナダの国交正常化交渉 西側諸国との関係改善と「一つの中国」
3. 学会等名 日本国際政治学会2017年度研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 福田 円
2. 発表標題 台湾から見た香港
3. 学会等名 シンポジウム「香港の過去・現在・未来」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Madoka Fukuda
2. 発表標題 The Current Situation and Prospects for Taiwan Under the Tsai Ing-wen Administration
3. 学会等名 Japanese Views on China and Taiwan: Implication for the U.S.-Japan Alliance (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Madoka Fukuda
2. 発表標題 Japan's Policy toward China and Taiwan
3. 学会等名 Strategic Japan Program (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Madoka Fukuda
2. 発表標題 The Frontline of Taiwan's Sustainable Diplomacy: The Japan-Taiwan Relations after Taiwanese Democratization
3. 学会等名 The 15th European Association of Taiwan Studies Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計10件

1. 著者名 テイラー・フレイヴェル、松田 康博	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 496
3. 書名 中国の領土紛争	

1. 著者名 倉田徹	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 272
3. 書名 香港の過去・現在・未来	

1. 著者名 姚百慧	4. 発行年 2019年
2. 出版社 世界知識出版社	5. 総ページ数 472
3. 書名 冷戦史研究 档案資源導論	

1. 著者名 Madoka FUKUDA	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 330
3. 書名 Lee Wei-chin ed. 『Taiwan's Political Re-Alignment and Diplomatic Challenges』 「Chap.12 “The Japan-Taiwan Relationship Under the Tsai Ing-wen Administration”」	

1. 著者名 加茂具樹編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 一藝社	5. 総ページ数 168
3. 書名 「大国」としての中国	

1. 著者名 細谷雄一、宮下雄一郎、林大輔、小川浩之、水本義彦、小林弘幸、福田円、鈴木均、山本健、黒田友哉、鶴岡路人	4. 発行年 2015年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 312 (165-190)
3. 書名 戦後アジア・ヨーロッパ関係史	

1. 著者名 姚百慧、王若茜、崔海智、高嘉懿、陳韜、福田円、蔣華傑、蕭道中	4. 発行年 2015年
2. 出版社 世界知識出版社(中国)	5. 総ページ数 292(239-253)
3. 書名 冷戦史研究档案資源導論	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----